

まじめ。

一生懸命。

二枚目。

あのね、これって、幸せからもっとも遠い人なの。  
人生がうまくいかない人のパターンなの。

「まじめ」な人はみじめになって、

「一生懸命」な人は、バカを見る。

「二枚目」気取ってる人って、ダサイ。

いま、こんな時代になりつつある。

そういったら、驚きますか？

「そんなことないよ。まじめはいつかむくわれるよ」と反論したくなったあなた。

そう、あなたにこそ、この先を読んでほしい。

だって、僕のセミナーにくる人は、みくんなあなたみたいに、まじめで一生懸命な人、なんだもん。

あのね、あなたはきつと幸せになれる。

ただ、その「まじめに」の方向を間違えなければ。

ただ、「一生懸命」をある言葉に置き換えることができれば。

ただ、「二枚目」じゃなくて、「三枚目」で生きることを決めたなら。

僕は、いつもこんなことを話します。

**「人生を変えるには、三秒で変わる道と、三〇年かかる道がある。**

**三秒と三〇年、どっちを選ぶ？」**  
って。

三〇年の道をゆっくり歩みたいなら、どつぞ、この本を閉じて、いつもの日常に埋没すればいい。それはそれで、きつとそのままです通り慌ただしくて、つらいことも多いけれどときどき幸せで、それなりの充実感はあるかもしれない。人生、可もなく不可もなく、最終コーナーを迎える頃三〇年以上かかってようやく、人生とは、人間とはなんたるかを学ぶ。

まあ、それも悪くないのかもしれない。

でもね、もしこの本を読んでくださったなら、きっと人生は三秒で、読んだあとにはもう生まれ変わっていると思う。生まれ変わった人生は、とにかく心躍ること、ハッピーなことばかりが寄ってくる。楽しい気持ちに終始包まれて、気持ちが軽い。これまで悩んでいたことが霧が晴れるように解決する。

だから、この三秒で人生を変える方法を、僕はおすすめしたいんだ。

**はじめに、この本の結論をいっとくよ。**

はじめ、一生懸命、二枚目むっつり。

そんなつまらないことは、いますぐやめようってこと。

あなたがどんなにできる人ぶったって、  
かしく生きようとしたってね、  
**あなたのなかにいる神さまはね、  
もっとやんちゃなの！**

「まじめぶるなよ〜」

神さまはそう苦笑いしてるのー！

え、楽しくなってきた？

それはあなたのなかの

やんちゃな神さまが目ざめたがっている証。

さあ、始めるよ〜！

## はじめに

「神さま」と聞いて、あなたはどんなイメージを持ちますか？

荘厳かつ威厳に満ちた、畏れ多い存在？

キラキラと光り輝く、聖なる存在？

すべてのものを超越した、絶対的な

存在？

いずれにせよ、できそこない人間とは一八〇度真逆の、すべてがそろった完璧な存在ととらえている方がほとんどでしょう。

**そう思うことは、ある意味、正解です。しかし、ある意味、間違っています。**



いつたい、どういうことなの？

そう思いますよね。

ここで、僕が見ている神さま像について、少しお話しさせてください。

いまから一五年ほど前のこと、普段親しくおつきあいさせていただいている数名の方たちと、沖繩から出雲大社にお参りに行きました。その方たちが、どうしても僕と一緒にいきたいということで、企画してくれたのです。

出雲大社に着くと宮司ぐうじさんが本堂をあけてくださり、ありがたいことに、みんなで本堂のなかに通していただきました。

そこで、僕は、同行した方たちにこういいました。

**「せっかく本堂に通していただいたのだから、より神さまからの大きなパワーを受け取るために、ちょっと儀式をしましょうか。」**

まず、右手の人差し指と中指をくっつけてピンと伸ばしてください。そのまま、その手をまえに出して、大きく時計回りでゆっくりと円を描きますよ」

同行者のみなさんは、一斉に、右手をぐるりと大きく回します。「それでは、目を閉じましょう。」

回した手を、今度は、鼻の下に当ててください」

そこにいる誰もが、僕の真剣な声に圧倒され、神さまパワーを受け取ろうと、まじめな表情で、鼻の下に指を添えます。集中しようとする姿は真剣そのもの。

しばらくの間、静寂が本堂を包みます。

「はい、手はそのまま、目をあげましょう。」

……

**みなさん、なにやってるんですか？」**

目をあけて、隣の人と顔を見合わせた瞬間、みんなは爆笑に失笑。宮司さんは苦笑いをしています。

——**だっつて、それっつて、どっつ見ても、加トちゃんへっでしよう。**



出雲大社の本堂で、そんなおふぎけをするなんて……と不愉快になられたら、ごめんなさい。でも、僕がこんなおふぎけをするのもワケがあるのです。それについては、本文でたっぷりと触れるとして……。

さあして、みんなで本堂で「加トちゃんへ」をしている間、出雲大社の神さまは何をしていたと思いますか？

それはね、こんなポーズ。



そう、志村けんさんの「バカ殿」でおなじみの、右手をあごの下に持って行って、あごを突き出す、あの「アイーン」のポーズです！

神さま、ナイスな切り返し！「加トちゃんペ」といえば、「アイーン」でしょ、と神さまは神さまなりにコミュニケーションをとってくれていたのです。

もちろん、神さまはみんなに「アイーン」をするわけではありません。根がひょうきんな僕に対しては、こんなふうに戻してくれただけで、まじめな人にはまじめな対応をしてくれます。ちなみに、自分を「てめえ扱い」している人には「てめえ扱い」で応えてくれ

ます。

つまり、**神さまはその人のキャバやキャラに合わせて、その人が受け入れやすいように、器用に向き合ってくれているのです。**

僕が自信を持って、そういえるのは、三歳のときから神さまと対話を続け、ときにはケンカをしたり、笑い合ったり、励まし合ったり、意地悪をし合ったりなど、対等な関係で向き合ってきたからです。

物心ついたときから、神さまと交信してきた僕にとって、神さまがそばにいるのは当たり前。家族のような、親友のような、そんな存在でした。だから、神さまからの「お告げ」や「メッセージ」といっても、親の小言と同じようなものにしか聞こえなかったんです。

そういえば、小学校二年生のとき、授業をまともにきかないうえに、宿題のプリントを机にぎっしりストックしていたら、神さまにこう怒られました。

「神さまのいうこともきかない、親のいうこともきかない。

お前は誰のいうこともきかない。いったい、お前は何さまなんだ！」  
って。

「え？ おれ？ おれは神さま。おまえの子どもだろ？」  
そしたらね、怒っていた神さまも、思わずプツと吹き出していました。

別に笑わそうと思っただけでなく、ただ普通に事実を答えただけなんですけどね。  
僕が神さまを崇めたり、神さまに従ったりしなかったのは、僕も神さまであるとかわかっていて、自分をとことん信頼できたから。

「僕も神さま」という言葉に、疑問を持たれた方もいるかもしれませんが、僕たちは誰ひとり、例外なく、神さまのエネルギーを自分の心に内在させて生きています。いわゆる「魂」といわれる部分に、神さまのエネルギーが宿っているのです。決して、僕が特別な存在なのではなく、僕たち一人ひとりも、神さまの分身なんですよ。

まさか、自分が神さまの分身？　と思うのも、まあ仕方ありません。でも、大丈夫。この本を読めば、自分も神さまであることを思い出しますから♪  
とりあえず、ここでは、僕たちは神さまだと覚えておいてくださいね。

では、もし僕たちは神さまだとしたら、僕たちのなかにいらつしやるのは、崇高で畏れ

多い神さまだと思いますか？

怠け者の人にも、おちゃらけた人にも、せっかちな人にも、どんな性格の人のなかにも、同じ完璧な神さまがいらつしやるとしたら、違和感を覚えませんか？

そうなんです！

人間一人ひとり、みな性格が違うように、神さまだって十人十色。お酒が好きな神さまもいれば、寝てばかりの神さまもいるし、一日中ボケ・ツツコミを考えて楽しんでいる神さまもいるのです。

**ただね、基本的に神さまは、とつてもやんちゃ。笑いや楽しいことが好きで、冒険もしてみたくて、ときには、はめも外してみたい……。そんな愛着を感じさせる存在なのです。**

じゃあ、自分にはどんな神さまが宿っていると思いますか？

それは、自分を知ればわかります。なぜなら、神さまは、ほとんど自分と同じ性格だから。もつというところ、自分の本質そのものをあらわしてくれているのが神さまだと思っただけで違いません。

自分の本質につながる、つまり「本当の自分」に目覚めれば、自分のなかにどんな神さまがいるかがわかります。

ただ、残念ながらほとんどの人が「本当の自分」を知らずに生きています。

たとえば、本当の自分は「愛こそすべてだ！」と松岡修造さんのような熱いハートを持っていても、世間の常識や人との関係性のなかでつくられた「こうでなければならぬ」「本来、こうあるべき」という理想にとらわれて、愛を見失った生活を送っていたりします。そんなとき、その人のなかにいる「人生、愛だよ！」と熱く語っている神さまとはつなげなくなってしまうので、いまひとつ心を開いて生きることができなくなるといった、人生の迷路に踏み込んでしまうのです。

でも、この本を手にとってくれたということは、あなたのなかの「本当の自分」が目覚めたがつている証拠。本書では、迷えるあなたを「本当の自分」に導くための秘訣をたくさん紹介していますが、そのことを無意識のうちに感じ取ったからこそ、この本に出合ったでしょう。

本当の自分に出会えたとき、あなたは、驚くほどやんちゃな神さまがずっと一緒に寄り

添っていてくれたことを知るでしょう。

「笑う」ことも好き、「泣く」ことも好き、ときには寂しがつてみたり、すねてみたり、怒つてみたり……。そんな「ありのまま」の神さまの存在を素直に受け入れられたとき、きつとあなたの心は、スツと楽になります。

だって、あなたの本質がやんちゃだとわかれば、もう大人ぶったり、いい人ぶったり、できる人ぶったりする必要がなくなるのですから。

そして、あなたのなかのやんちゃな神さまと仲良くなると、すごいパワーが発揮されます。**それは、ただ思うだけでどんな願いもかなうようになり、自分を愛し、人を愛せるようになるということ。**

幸せな人間関係のなかで愛に包まれながら、願ったことが現実になるなんて、まさに、あなたは神さまそのものの生き方ができるようになります。

やんちゃな神さまとつながるといことは、それほどすごいパワーがあるということ。なぜって、自分の本質とつながることができたら、もう「そのままの自分」で生きていけばいいだけなので、まわりに影響されてあれこれ悩むことはなくなり、自分の気持ちに素

直に生きていけるようになるからです。

**人生がとてもシンプルになるのです！**

あなたを幸せに導いてくれるやんちゃな神さまと、楽しくコミュニケーションをとるためにも、まずはこの本をじっくりお読みください。

寿命をまっとうして天国に帰るまでの間、この生きにくい地球で幸せに生きていくために、あなた自身が自分のなかのやんちゃな神さま（本質）を思い出し、もっともっと「自分を生きる」こと。

この本を通して、このことをお伝えしたいと思っています。

**やんちゃな旅路への準備はオーケーですか？**

**さ〜あ、行ってみよう！**

## 目次

はじめに 6

### 1章

神さまに愛される人は、  
笑いとユーモアを持っている

はじめに生きるなんて、クソくらえ！ 26

高校生四〇〇人の目を一瞬で変えたひと言 30

地球は神さまの「遊び場」って、知ってた？ 34

常識に縛られた「まじめくん」は神さまのタイプではない 38

素晴らしい人間になりたがる人は神さまをしらせせる 40

幸せになるための方法は宇宙の法則が教えてくれる 44

真実を話したつもりが、問題児!? 47

天国へ帰る扉探しの旅の結果、生まれた覚悟 51

常識をクソまじめにまっとうするより大切なことってあるでしょ 55

笑うことができれば、人は変われる! 59

バカ社員を素晴らしい社員に変えたハゲタカ社長 60

不幸を招いているのは、いつもの「あの」思考パターン 63

不快脳ではなく愉快脳を使えば、人生は一瞬で変わる 66

「ハッピースイッチ」をオンにする方法がある 71

二枚目妄想は捨てる、三枚目で生きるって気持ちいいゾ! 75

苦境も災難も、自分が「選んで」「オーダー」したもの!? 80

マイナス感情すらも、もとはプラスのエネルギー 85

人生に幸せしかやってこなくなる「コツ」がある 88

## 2章

### 私たちが

### 「神さま」なんだから

神さまのことはときどき思い出すくらいでちょうどいい 96

自分の奥深くに神さまはいつも「いる」 100

自分は神と知りつつ、とことん人間を生きなさい 101

神さまへの「マザコン」人間は、神さまにとってうつつうしい 103

ナンパも「人生相談」に変わってしまう「心が読める」悲しい現実 107

どうして神棚にお酒を供えるか知っていますか? 110

崇めるでも畏れるでもなく、神さまとは「対等に」つきあいなさい 112

「命は全自動だ!」と悟った瞬間に病気が治癒した不思議な体験 116

髪に触れると「視える」「治る」を経験した美容師時代 124

### 3章

# 人生は超シンプル！ ただ思うだけで願いはかなう

願いをかなえたいなら、ただ思うだけ 132

「ただ思うだけ」で人生で二度のホールインワン！ 136

「いいこと」の次には良くないこと」は間違いだと僕がいい切る理由 138

「思ったつもり」が「条件の再確認」になっていませんか？ 140

たくさん願いをかなえたいなら「これ」だけは注意しなさい 142

学校に行かない子どもを、学校に行かせることより大切なこと 144

「思考」ではなく「思い」が現実になる 148

ダイエットせずにひと月で八キロやせた女性の「ある変化」 150

力みをとまなう願いはかなわない 154

とはいっても、控えめな願いもかなわない 159

神さまは「駆け引き」しない、魂胆は捨てなさい 161

可能性を掴む知ったかぶり 166

「いいことをすればいいことが返る」は間違いである 169

心が機能しなくなった本当の理由 174

人間は「木から下りた」生き物？ 「天から降りた」生き物？ 178

本当にお金持ちになりたいの？ 183

お金の使い道を考えない人のもとへお金は向かわない 185

お金が「帰りたくなる場所」か？ お札に名前を書いて実験 186

お金を支払うたびに豊かになる感覚、ありますか？ 190

お金を「無駄遣いした」人ではなく「腐らせた」人にバチが当たる 193

豊かさの見積書はできていますか？ 196

宝くじに当たるのは運がいい人？ 悪い人？ 199

## 4章

# その悩みは、

# 自分を生きれば解決できる

母親承認が人間関係の力ギを握る 204

自分を生きなければ、親と自分に一線を引く「親切」をしなさい

いつの間にか、誰かの価値観で生きてませんか？ 216

あなたは本当に「聞こえて」いますか？ 219

自分に問いかけを持つと自分のなかの神さまにたどりつく 223

メンツは家庭を病ませる原因 227

自分を最高に幸せにしてくれる人と出会う絶対法則 237

男性は女性に認められるためだけに生きている!? 240

ウンコマン事件、発生！ 244

## 5章

# 自愛があれば、必ず幸せになる

命はすべてつながっている 258

「命の重み」に気づかないお年寄りとの老人ホームでの大ゲンカ

自分を小さく見積もって生きるな！ 265

あなたはどんなふうにも物を扱ってますか？ 268

人生のギャラリーではなくブレイヤーになる 270

人生のどん底にいた女性に毎日課したたった一つのこと 274

愛でしか食えないでしょ！ 278

感謝は悟り 284

自分を生きれば、すべて解決する 286

神さまとつながるゲーム① 直感で選んだ花を連れて帰り、会話する 288

神さまとつながるゲーム② 一〇円でラッキーを買う 289

神さまとつながるゲーム③ 洋服をねぎらいながら、やさしくなでる 290

神さまとつながるゲーム④ ワクワクするものを、ただ心に思う 291

神さまとつながるゲーム⑤ トイレットペーパーを三つ折りにする 292

神さまとつながるゲーム⑥ 「旅しておいで」とお金に声をかける 293

おわりに 294

装丁 萩原弦一郎(デジタル)

本文DTP 玉造能之(デジタル)

イラスト 丹下京子

構成 梅木里佳(チャ・アップ)

編集協力 田中 一(くすのき舎)

編集 橋口英恵(サンマーク出版)

# 1章

神さまに愛される人は、  
笑いとユーモアを持っている。

## まじめに生きるなんて、クソくらえ！

母親のいうことを聞いて、学校の先生のいうことを聞いて、塾に通い勉強をして、そこその学校に進学し、無難に就職。会社では上司の顔色を、家では夫や妻の顔色をうかがいながら、周囲や親戚とおつきあいでは愛想笑いを欠かさず、波風を立てないようにまじめに生きている、そのあなた。

**人生、楽しいですか？**

**毎日が、笑いであふれていますか？**

この質問に、心から「はい！」と答えられる人は少ないかもしれません。

僕は年間約一〇〇回、これまでのべ五万人の方に向けて、セミナーや講演会を行ってきました。人はどのようにすれば幸せになれるのか。より自分らしく生きていくにはどのような心持ちでいればいいのか。企業に向けては、どうすれば社員の力を最大限に発揮できるのか。人の成長、健康、幸せにまつわるあらゆるテーマで、お話しする機会をたくさんいただいています。

老若男女、さまざまな人たちが僕の講演を聞いてくださいますが、一番多い感想が「笑えて、泣けて、やつぱり笑えた」というものです。

ずっとゲラゲラ笑っている人もいたり、笑ったと思ったら泣いていたり、感情のジェットコースターのようにだと感想をくれた人もいました。

笑うことは大事です。「笑える」ということは本当に大事。

ちなみに、「はじめに」に書いた「加トちゃんペ」は、僕の講演会の定番です。僕が、こんな「おふぎけ」をするのにはワケがあります。

「笑い」がいかに重要か、「笑える」ことがいかに大切かを、日々骨身にしみて感じているからです。願望達成であれ、幸せに生きる方法であれ、笑いによってリラックスした状態をつくり、そこから本気に導くことこそが、ただひとつの近道なのです。

何かを達成したい。手に入れたい。

そんなとき、「一生懸命やらなくちゃ」「まじめにやらなくちゃ」なんて思っていますか？ **僕にいわせれば、そんなときこそ、「まじめに」なんて考えちゃダメ。「一生懸命取り組もう」なんて思っちゃダメ。**

そんなことより、「笑って」「泣いて」「怒って」といった感情に素直になることが、目標の実現や成就の近道なんですから。

自覚されている方も、無自覚の方もいらっしやるでしょうが、みんな、感情を抑圧しています。

**でもね、感情は抑圧したら絶対に悪さをしますよ。** だから、抑えちゃいけない。泣くも、笑うも、怒るも、みんな大事な感情の吐露<sup>とら</sup>、必要なことです。それなのに、感情を出すなんて大人じゃないといわれるのを恐れて、感情を押し殺している人がなんと多いことか。

僕のセミナーを受けにくる方たちも、最初はみんなこの状態です。まじめに、真剣に聞かなきゃ！ お金を払って参加したこの講演から、何かを学ばなきゃ！ という怖い顔をして、座っています。いま、この本を読んでいるあなたの表情と同じように、です。

**でもね、「まじめに」と、頭から入ろうとすると、何を聞いても、何を見ても、心で感じとることはできないんです。** 単なる知識として、頭に入るだけ。頭に入っただけで行動に移せなければ、なんの意味もないのです。頭に入った知識は、行動の燃料にはなりません。行動に結びつくのは、心に湧き起こった「感情」だけだからです。

だから僕は、感情を出させて、まず心をほどくことが大切だと思っています。強力なフ

タをこじあけるためには、笑いが必要。リラックスして笑うと、体もリラックスして心の門が開きます。心がふわっと開いたところに、本当に伝えたい真剣な話をすると、ぐぐつと心の奥に入っていく、行動につながるんです。

「笑い」によって「心の門」が解き放たれると、あなたはあらゆることを「心で」感じられるようになります。

心で感じられるようになると、どうなるかわかりますか？

**そう、なぜだか、今度は涙があふれてくるんです。**

だから、僕の講演会はいそがしいですよ（笑）。大笑いしたと思ったら、今度はハンカチを目に当てている。涙を流していることなど気にもせず、鼻をズビズビいわせてポロ泣きしているかと思えば、机をバンバン叩いて笑い転げたりしている。初めて僕の講演会にきた人はちよつとびつくりしていることでしょう。

感情を解き放って、笑って泣いているうちに、人は生まれ変わったようになります。それは、表情も変わるし、人から見た印象も変わる。本人はとにかく心が軽くなります。僕

にいわせれば、まわりの殻がとれて、むき立てほやほやの、つるんとしたゆで卵のような、その人そのものがあらわれたようなイメージです。そして本人のなかには、「今度こそ自分分は幸せになる！ 絶対に変われる！」と、自信に満ちた「決意表明」が自然と湧き起こってきます。

むき立てほやほやの卵ちゃんたちを見るのが楽しくて、僕は今日も、全国を飛び回って、いろいろな人たちと向き合っています。

## 高校生四〇〇人の目を一瞬で変えたひと言

僕の地元は沖繩ですが、学校にお呼びいただいて、現地の高校生に向けて「人生を楽しく自分のものにする方法」といったようなテーマで話をする機会もありました。

体育館に整列した生徒たち。

校長先生の話のあと、「こんどは誰の話だよ？」と、つまらなさそうにしている彼らに、壇上に立った僕は、開口一番こういいました。

「まさか、まさか、まさか、

君たちさ、まじめに生きてないよね？」

「まじめに生きよう、なんてしてないよね？」



それまでこちらに顔を向けもしていなかった高校生たちが、目をきよとんとさせてこっちを見ます。「この人、誰？」という怪訝けげんな顔をしています。

そこで、間髪入れず、こういいます。

**「大人って、楽しいぜ〜。サイコーに楽しいぜ〜！」**

人はさ、楽しむために生まれたんだよ。

まじめに生きて、まじめにいい大学に行つて、まじめにいい就職先に勤めれば幸せだと思ふ？ それでハッピーな人つてまわりにいる？」

彼らは一瞬考えるような顔をします。

「人はさ、生かされているんだよ。どう楽しむか、いかに楽しむかが、与えられた命に対する感謝の還元なんだよ。**だから、楽しむことは、人生の掟おきて**。それくらい、真剣に楽しむことを考えてほしいわけ」

すると、素直な子どもたちの目が輝き始めます。

楽しむ、ということとは、なにも、勉強をせずに毎日遊びほうける、ということをもいつているわけではありません。勉強が好きな子もいるでしょうし、研究熱心な子、スポーツが

得意な子、料理が好きな子、人と接するのが楽しい子、ひとり机に向かう作業が落ち着く子、あるいはリーダーシップを発揮するのがうれしい子など、それは大人同様、子どももさまざまです。

**どんな人も、「楽しそう」「面白そう」「ワクワクする」という基準で、すべての行動、進む方向を決めたいんです。**

そもそも、「楽しそう」「面白そう」という思いで人生の方向性を決めていない人は、いろんな不満や壁があらわれます。職場にしたつて、年収がいい、福利厚生がいい、企業としてブランドがある……そんな表面的な条件で選べば、いまは楽しくても、いつか楽しくない部分、不満を持つてしまう部分に当たつてしまうのは当然でしょう。

仕事であれば、ワクワクできる職種を選べばいいのです。好きな仕事なら、やりたいことをやっているのです。たとえお給料が安くてもあまり気になりません。「ワクワク」「楽しい」が基本にあるので、自然に結果も出て年収も上がるでしょう。独立するくらいの技術を身につけて、起業の道を歩むかもしれません。

好きこそ物の上手なれ、ということわざがあるように、人は「好き」という気持ちがあれば、「ああしたらどうか」「こうしたらもつといいかも」とアイデアがどんどん湧き出

てくる。習得も早いし、自然と向上心にもつながっていくものです。

ちなみに、「向上心を持ちましょう」とよくいわれますが、向上心を「持つ」ことはできません。だって、向上心とはそもそも「好き」が起点となって、そこから湧き上がってくるものだから。「好きではない」ものに、向上心は湧かなくて当然なのです。

「好き」という気持ちは、心を躍動させるための種。だから、好きという気持ちは生まれるたら、そのワクワクを大切に、とことん楽しむ。

楽しむことが人生の掟とは、僕が常々いつていること。不機嫌でいることは、それだけで、「マナー違反」なんですよ。

## 地球は神さまの「遊び場」って、知ってた？

ワクワクすること、楽しいことをしよう！ これには、ちゃんとしたワケがあります。それは、地球は、神さまが「ユーモアで」つくった星だからです。

**退屈になった神さまが、「なにか面白いことがしたい」と、遊び場、つまり遊園地と**

**して創造した場所、それが地球なんです。**

「地球？？」

「神さま？？」

突然、なんの話かと思われたかもしれませんがね。  
**ここからは、少し怪しい話になりますよ(笑)。**

ある日神さまは、なんでも思ったことがかなってしまいう意識の世界（魂の世界ともいい換えられます）に飽き飽きして、「なにか刺激的なものがほしい」と思い立ちました。僕たちも穏やかな変化のない生活が続くと、「ドキドキ、スリルのある出来事でも起こらないかな」と思いますよね。それと同じ。神さまも退屈したんです。



そこで、神さまはなにをしたのかというと、時間や長さといったその量を具体的に数値であらわすことができる物理的次元、つまり、目で見えることが優先される物質世界である地球をつくったんです。

僕たち人間は、肉体と意識の両方が合わさって動いています。普段肉体を持って生きていると、どうしても目に見えることしか信じられません。そのため、現実世界でぶち当たる、つらいこと、悲しいことに真剣に悩んで生きることができません。

そう、真剣に悩んで生きることができません！

意識の世界は、すべてが調和、理解、愛で満たされているので、苦しんだり、落ち込んだりすることができません。不安、苦しみ、悲しみといったネガティブな感情は、物理的な世界につかまっているからこそ体験できること。その状態は、神さまにとつて、ものすごくスリリング。超面白くてやめられないのです。

退屈な思いをしていた神さまも、地球では深刻なことや、不安を体験できる、ものすごく刺激的なジェットコースターに乗っているような刺激を得られるのです。

**つまり、あなたがとてもつらい思いをしているときに、意識の世界では「願ったり、か**

**なったり」と楽しんでいるわけです。**

なんだか、悩みを持って生きていることが、バカらしくなりませんか？

そもそも、神さまが遊び場としてつくった地球なのに、真剣に生きてどうするの？と僕はいいたいのです。

真剣に勉強して、真剣に子育てして、真剣に家庭を持って、真剣にマイホームを建てて、真剣に財産をつくって、どうするの？

宇宙の歴史からいったら、ものすごく短い人間の一生なのに、大まじめに生きて、この世の常識に縛られて、結局「人生は思い通りにならなかったあゝ」「人生って修行の連続だったなあゝ」といつて死んでいくなんて、悲しすぎませんか？

**僕は、人生をつらいものだと思って生きている人を見ると、「おゝい、深刻になってどうする！ 遊びにきたんだよ。思い出してよゝ。もっと楽しもうよ！」と、つい教えてあげたくなっています。**

地球という星は、みんなそれぞれが自分のドラマ「深刻劇場」を繰り広げているような

ものなのです。なんでわざわざ暗いドラマに仕立て上げようとするのか。いかにバカらしいのかをぜひ知ってほしいのです。

つらいことも、神さまにとっては遊びの一環。神さまはまじめな人よりも、地球遊園地で遊びを楽しんでくれる、ユーモアのある人が好きなんです。

## 常識に縛られた「まじめくん」は 神さまのタイプではない

神さまはもともやんちゃな性分<sup>しょうぶん</sup>。だから、まじめよりもユーモアや笑いが大好きです。じゃあ、まじめ一筋で生きてきた僕はどうなるの？ といいたくなる方もいるでしょう。

**まじめのなかにもいくつか種類があるのですが、この世の常識や固定観念から外れないように、いつけを守って生きてきたようなまじめはダメです。**常識を信じて生きたら、まわりにどう見られるか、ということばかりを気にすることになるので、自分らしく生きられなくなるからです。そんなとき、あなたのなかのやんちゃな神さまは、出番がなくて

しよぼくれてしまいます。

僕が推奨するまじめは、「人間的まじめ」です。「人間的まじめ」というのは、人間としてどうしたら幸せに豊かに生きられるかを、日々実践しながら生きるまじめさのこと。

ここからは、ちよつと大人の話♡

たとえば、セックスの相手が、真剣な表情で、あなたの乳首を一時間も眺めたり、触ったりしていたらどう思いますか？

たいていは、「変態！」と思うでしょう。

でも、人間的にまじめな人は、一時間かけて乳首を研究するんです。だって、セックスをするなら、どこまでも相手を喜ばせたいという探求心があるから。セックスのことを話すときと深くなりすぎるのでここでは触れませんが、体は開発されればされるほど、神さまと一体化することができるのです。

どこに性感帯があり、どう扱うと感じるのか、相手の体をちゃんと開発して、本当の自分にたどりつかせてあげようと思うからこそ、一時間も乳首を触って研究するんです。

でも、実際はというと、ほとんどの人は、相手の触り方もわからない、扱い方もわからない、ただデリケートに触ることがセクシーだと思ってる、感じてないのに感じたふりをする……そんなくだらないゲームを繰り返しているのです。

僕からしたら、ちゃんと研究して向き合えない、わかったふりをするその姿勢こそ、不まじめ極まりないと思うのです。

「この人、一時間も私の乳首をいたずらしながらなにをしてるんだろう？」

と思うかもしれませんが、実は、一生懸命いたずらをしながら、幸せを見つけているのです。こういうユニークな「まじめ」なら神さまも大喜びなはずですね。

## 素晴らしい人間になりたがる人は 神さまをしらせさせる

「素晴らしい人間にならなきゃ」と思っている人が多いと思いますが、その考えはダメダ

メ。ゴミ箱に捨ててくださいね。**なぜかというと、素晴らしくなると、神さまをしらせさせてしまうんです。**

「じゃあ、素晴らしくならなくていいの？」

という疑問が湧いてきますよね。だって巷ちやまたには素晴らしい人間になるための方法とか、生まれ変わる方法とか、そんなものがあふれかえっています。

それに対する僕の答えは、

「**素晴らしくならなくてオーケー。だって、僕たちはそもそも素晴らしい存在だから。**なぜなら、僕たちはみな神さまなんだから☆(キラッ)」

**僕たちは神さま???**

そうなんです。「はじめに」でもいいましたが、僕たちは神さまです。神さまとは、自分とは別世界の尊とうとい存在と思っただけあなた、実は違うんです。

僕たちが、神さま。僕たちは、神さまの分身。このことについては、次の章で詳しく触れますので、とりあえずここでは、「僕たちは神さま」とだけ覚えておいてくださいね。

僕たちは神であり、もともと素晴らしい存在なので、  
いかに素晴らしい人間になるかを追求すると、神さまは  
「つまらないな、もう素晴らしい競争はたくさんだよ！」  
と飽きてしまいます。

人間として生きているからには、意識の世界では体験  
できないことをとことん経験して、いかにユニークにな  
れるかを勝負しようよ、と神さまはいつているのです。

では、どうすればユニークになれるのか。

それは、神さまに一目置かれる存在になり、ときどき  
神さまの意表を突くことです。神さまはやんちゃであつ  
ても、基本、愛そのものなので、イケナイことが理解で  
きないのです。根っからの善人である神さまにとって、  
予測不可能な存在になれば最高です。



**死んであの世に行くと、僕たちはみな（私たちの大本である）神さまに「どんな人生だつた？」と聞かれます。** そのときに、「まじめに、遊びたい気持ちも我慢して、子育てに仕事に頑張ってきました！」といつても、神さまは面白くありません。「そうなんだ、それはそれはお疲れさま。大変でしたね」という返事でしょう。

それよりも、「結婚してたんですけど、ほかにも好きな人が何人もいて、いろいろ楽しい人生だったんです〜♡」といったほうが、「それは、どういふことなんだ？」と興味津々に聞いてくるでしょう。

天国へ行くために良いことをしなきゃ、と一生懸命に「良い行い」をしようとしている多くの方にとっては驚きかもしれませんね。**でも、神さまは人間が想像しているような「風紀委員長」のようなタイプではありませんよ。とにかく知りたがり屋で、好奇心のかたまりなんです。**

だから、ユニークに自分らしく生きた人には、

「あとで、私の部屋にきなさい」

と、あなたに神さま部屋の鍵を渡すことでしょう。

つまり、神さまに関心を持たれるような生き方をしている人ほど、神さまとお近づきになれるということなのです。

## 幸せになるための方法は 宇宙の法則が教えてくれる

ここまでお読みになって、僕という人間を怪しみ始めた人も多いのではないのでしょうか。いや、ほとんどの方が怪しんでおられることでしょうね。この辺で、少し僕自身のことをお話しします。

僕はいま、「人間学講師」として、学生、社会人、母親、経営者、プロスポーツ選手など、あらゆる人たちに「生きる」とはどういうことか、「本当の幸せはどうすれば見つかるのか」といった人間の生き方を、宇宙の真実を交えて教えています。

**なぜ、このようなことをしているのかというと、僕には生まれる前の記憶、胎内記憶は**

**もちろん、受胎する前の、宇宙の意識があるからです。**

僕は仮死状態で生まれてきました。みなさんは、産道を通るときに、生まれる前の記憶をほとんど消されてきますが、僕は仮死状態だったので、意識は肉体の外にあつたんです。そのおかげで、記憶が消されずに残ったのだろうと思います。

僕の記憶、それは、この地球のレスキュー隊の隊長としてやってきたこと。この宇宙はすべてが自由意思で成り立っているけれど、それが放っておけないほどまずい状態になつてしまったため、なんとかしてこの星を立て直そうと生まれてきました。

レスキュー隊といつても、僕だけじゃないですよ。一九六〇年代くらいから、どんどんレスキュー隊員としてこの地球に生まれてくる人が増えてきて、いまでは、ほとんどの人がレスキュー隊員のはずです。

そう、あなたもです。ただ、忘れていて気づけないだけであつて。

特殊な記憶がある僕は、一緒にレスキュー隊として生まれてきた同級生に、小学生の頃、「レスキュー119だよね、よろしく！」

といったら、「は？」とバカにされました。

でも、このまえばちよつとびつくりしたことがあったんです。地方に講演に出かけたとき、三歳と五歳くらいの姉妹が駆け寄ってきて、

**「金城先生、元気だった？ この星でも、またヒーローするんでしょ。大人になったら、ヒーローのお手伝いするからね♡」**

というのです。こういう意識の高い子どもたちが増えているとは聞いていたけれど、こんなにもろにいわれると、さすがの僕も引きました（笑）。

まあ、そんなことで特殊な記憶を持つて生まれてきたため、子どもの頃は、赤ちゃんの肉体を持ちながら、意識では「この地球を良くしなきゃ」と考えていたのです。赤ちゃんが地球の未来を真剣に考えているって、面白いでしょ。

その一方で、一応人間の子どもとして、「お母さんに好かれたいな〜」とも思うわけです。ところが、僕のおふくろはこれまたとつても暗く、杓子定規しゃくしじょうぎのようにまじめな人。僕を怒るか、叩くかしか考えがない人でした。

僕が生後六カ月くらいのときに、あまりにも子育てに疲れ切つて暗い表情をしていたの

で、ここで一発笑わせてみようよと、自分の足を手でつかんで、足の親指をおしゃぶりみたいにくわえてみたんです。

そしたら、これにツボつて（ツボに入るという意味です）笑つてくれた。おふくろは偶然、僕が足の親指をくわえたと思つただけで、僕としては意識的にやつていたんです。おふくろの笑顔を見たときに、ひと安心したことを覚えています。

## 真実を話したつもりが、問題児!?

小学校に入つてからは、いつも一番まえの席で先生の真横、いわゆる特等席でした。先生にとつて問題児だったからです。僕は一生懸命、真実を伝えていたのですが……。

たとえば、小学校一年生のとき、先生が「1+1=2です」と教えるので、僕は思わずプツと吹いてしまいました。

「先生、一杯のコップの水と、一杯のコップの水を足したら1であつて、2になりませんよ。算数にならない算数があるんだから、まじめに1+1=2つて教えると、子どもが信

じぢやうからやめて(笑)」

そしたら、先生は「屁理屈だ!」といってキレたんです。そのとき僕は、なぜ怒られるのかわからなくて、「よし、これからは毎日先生に質問して、それに対してどういう反応をするか調査しよう」とよけいに好奇心が湧いたことを覚えています。

小学校四年生のときの往復びんた事件は忘れもしません。担任の女性教師は、とにかく常識のかたまりのような人。人の気持ちや、なぜそうするのかを聞きもしないで、規則や常識に生徒を当てはめようと、自分の機嫌の良し悪しで生徒を叩く先生でした。

僕は、この先生がどれくらい融通が利かないのか、人間の意識調査をしているつもりだったのですが、僕の態度がふざけていると思っただけでしょう。僕に往復びんたをくらわせたのです。

それがすごく痛かったので、僕もさすがに「この先生、本気だな」と思い、

「どれくらい根性があるのか、もう一回殴ってみて」

といったら、再びものすごい往復びんたをくらわせてきたんです。それで、僕は、

**「もっつー一回っつみよっー!」**

と、ドリフターズの真似をしていったら、また往復びんたがきたわけです。もう僕の頬ほおは赤く腫れ上がり、鼓膜がおかしくなったのか、まわりの音もワンワンうなっている。でも、僕にとつては調査の一環なので、ここでひるまずに、

「暴力ふるうって、どんな気持ち?」

と聞いたわけです。そしたら先生がハツとして、

「私が殴ったんじゃないわよ! あんたが、ふざけたせいよ!」

といったわけです。僕は、「出た! これが、かの有名な責任転嫁術だな」と確信し、

さらに、

「暴力ふるうって、どういう気持ちですか?」

と聞くと、先生は青ざめた顔で気が触れたように泣きじゃくり、

「あんたが悪いのよ!」

といって、職員室にすごい勢いで走って行ってしまったんです。

そのあと、校長先生と教頭先生と、生活指導の先生が教室にやってきて、

「おまえ、担任の先生になにをした?」

と聞くわけです。普通「なにをされた？」ですよ。

「どうやら担任の先生は職員室で、「私はもう教員としてやっていけない……」といつて泣いていたらしく、僕が担任をいじめたと思つたのでしょうか。」

「校長先生、見ればわかるでしょ！ 僕の顔、赤く腫れてるし」

「いいましたが、その訴えも虚しく、職員室に連れていかれました。そのあとおふくろも学校に呼ばれて、「お母さん、一緒に問題児として考えていきましょう」ということになり、先生たちとおふくろでタッグを組み、僕を監視する体制ができてしまったのです。」

その後、学校の黒板横には、常に僕を叩くことができる「金城幸政の棒」という一メートルくらいの定規が掛けられるようになりました。先生にとつて悪いことをすると、叩かれるという毎日。

ちなみに、家にも同じような僕を叩く専用の棒がありました。テーブルに手をつくすとすぐバシッと叩かれる、「人の話を聞くときは正座しなさい」といつて叩かれる。

さらに、親父はおふくろよりも怖い人で、言葉よりも腕力でコミュニケーションをとろうとする人でした。戦争孤児で物を拾ってなんとか生き延びてきた、という体験があり、

僕を「たくましい男に育てたい！」という一心で殴っていたこともわかっていました。だから、僕は親父にとことん殴られることを決めたんです。

「いくらでも殴れ、受け止めた分だけ強くなってみせる！」つてね。

普通だったら、ここまで親や先生から怒られたら、いじめてぐれてしまうところですよ。

**でも、僕はなぜか、いじけたり、落ち込んだりというアイデアはなかったのです。**

とにかく笑ってほしい、という気持ちが働いて、お尻を棒で叩かれるときはわざとお尻を突き出したり、頬を殴られるときは変顔をしたりしてしまふんです。とにかく、みんなに笑ってほしい。でもその気持ちは伝わらず、大人たちはよけいに腹を立てて怒り狂っていました。

## 天国へ帰る扉探しの旅の結果、生まれた覚悟

四歳のとき、僕は「間違った星に生まれちゃった」と後悔していました。地球のレスキュー

隊として降りてきたことは理解していたのですが、おふくろやまわりの大人にユーモアが通じず、大人たちがキレまくるので、もうどうしていいかわからなくなってしまったんです。

落ち込むというアイデアを持つことができなかった僕は、最初、「僕をちゃんと成長させるために、怒るといふ関わり方をしてくれてるんだな」と、思っていたのです。

おふくろが怒ると、「こういう怒り方をされたときに、子どもとしてどう受け止めればいいのか、という対処法を身につけさせてくれてるんだな」というように。だから、僕がうまくユーモアで対処すれば、おふくろは、「さっきの、迫真の演技だったでしょ。あなたの対処法、なかなかいいじゃない」と褒めてくれるもんだと思ってたんです。

ところが、いつまでたつてもそういつてくれない。それどころか、朝怒ったことを引きずり、夜になつても不機嫌なまま。

「そうか、もうちょつとこのやりとりを続けるための演技なんだなあ」

最初はそう思っていたのですが、さすがに、そうじゃないということがわかってくると、

「この人、マジで怒ってるのかもしれない……」と思うようになったのです。

このときは、さすがに、自分のめでたさにショックを受けましたね。

「おふくろは本気で怒ってるんだ。これはもうダメかもしれない」

落ち込むアイデアを持てなかった僕なのに、珍しく、親にも社会にも幻滅して、それからは「天国に帰る場所を探す」ことが、僕のテーマになったのです。

屋根裏、床下、森のなかの洞窟どうくつなど、どこかに天国に通じる道があるはずだと思い、いろいろ探しましたが、一向に見当たりません。疲れ果てた僕は、祖父に聞いてみました。

**「おじいちゃん、どうやってたら神さまのところに帰れるの？」**

すると、おじいちゃんは、

「そうだな。天の神と地の神がつながっているのは井戸だから、井戸に行けば神さまに会えるかもしれないなあ。昔から、一度つくった井戸は簡単に埋めちゃいけないっていうのは、そういう意味もあるんだよ」

と教えてくれたのです。

僕は、「神さままつたら、やつぱりカモフラージュうまいな。井戸に天国への扉があるとは、

さすが！」と思い、すぐに近所の井戸に向かいました。

井戸のそばで「神さま、早く迎えにきてください」と祈りました。何日も通い詰めましたが、一向に神さまはきてくれません。それなら、自分から行くしかないと思った僕は、深さ一〇メートルほどの井戸にあとさき考えず飛び込んだんです。

井戸のなかには深く水がたまっていて、いくら潜もぐっても土底しか見えません。そのとき、初めて恐怖が湧いてきました。まずい、もしかして、井戸に落ちたかも……。

底に足がつかない僕は、水のなかで石の壁の隙間に指を入れて浮いていました。

「お〜い、助けて〜」

と叫びましたが、誰もきてくれません。「このまま見つけてもらえなかつたら死んじやうかも」と思いながら四〜五時間くらいたつた頃、上を歩いていた人が「井戸のなかから声がする」と知らせてくれて、近所の大人たちが集まってきてくれました。

やっと見つけてもらった僕は、上からロープを下ろしてもらい、なんとか引っぱり上げてもらって、助かったのです。

おふくろからはまたこっぴどく叱られ、この出来事で、天国への扉は存在しないことが

わかり、「この親のもとで生きていくしかない」と覚悟を決めたのです。

## 常識をクソまじめにまっとうするより 大切なことってあるでしょ

周囲から「頭がおかしい」と思われていた僕は、何度もおふくろに脳外科に連れていかれて、精密検査を受けさせられました。でも、異常は見当たりません。すると、今度は精神科に回されます。

そこで問診を受けたときの事です。

**「じゃあ、僕、簡単な問題を出すからやってみようね」**

そういつて、両手の指をそれぞれ三本ずつ出して、僕に見せた医者。

僕はすかさず、

「四！」

と元気に答えました。すると、医者が悩み始めます。悩んだあげく、

「じゃあ、今度は触って数えてみようか」

というので、僕は曲がっている指を一本ずつ触って数え出したら、

「なめとんのか!」

といつて怒られました。医者は、バカにされたと感じたのでしょうか。

「お母さん、この子ふざけてます!」

というので、僕は答えました。

「先生、僕は数字を数えるときは、指を一本ずつ曲げて数えます。普通は、そうですね?もしかして、先生は、伸ばして数えるの?」

すると、先生は一瞬考えて、

「いや、曲げて数える」

というので、今度は僕が両手の指を三本ずつ出して、

「これいくつ?」

と先生に聞くと、

「四」

と答えたんです。

「ほら、先生だって、曲げて数えたら四じゃないか」

といったら、さらに激怒され、結局、その精神科医にも見放されてしまいました。

大人たちは、この世の常識に縛られて生きています。常識をクソまじめにまっとうしようとしています。でもね、本来人間とは、もっと自由に楽しく生きたいものなんです。だから、まじめに生きていると、「本当はそうじゃないのに……」という気持ちが湧いてきて、何事もうまくいかなくなってしまうのです。

**僕は、「常識よりも、人間にとってもっと大事なことがあるでしょ」という思いで子ども時代を生きてきました。**

でもね、これは僕だけがそう思っていたわけじゃない。大人がちよつと忘れてしまっただけで、子どもはみんなそう思ってるし、世の中のことをなんでも理解してるんです。なのに、大人の狭い価値観や常識で、子どもの無限の可能性をつぶしてしまう、それが現実です。



おふくろもそのひとりでした。おふくろは、「僕」という人間を理解できず、苦しんでいたんです。そんなおふくろを見て、僕はいつもこういつていました。

「母ちゃん、僕を産んだ目的は、自分の理解力の幅を広げることだと思いなさい」

おふくろは、一瞬なにをいわれたのかわからない顔をしてから、ハツとしたように、

「なにいつてんの！ 親の気も知らないで、このバカ！」

と怒ります。僕にしてみれば「子どもの気も知らないで！」という思いでしたものです。

とにかく、生まれてきた本当の意味を伝えたい。頭で考えるのではなくて心で感じて、笑って生きる大切さをなんとか伝えたい。だから、僕はとことん自由で、反抗的で、「おかしな子」だったんです。

**「人生を楽しもうよ。そのために生まれてきたんだから」**

ただ、それを伝えたくて。

一章分まるごと読める「サキ読み」

「立ち読み」のサービスをご利用いただき、  
ありがとうございます。

お読みいただきました書籍の

タイトル・本文は、本サービス掲載時のものです。

実際の刊行書籍とは、一部異なる場合がございます。

あらかじめご了承ください。

株式会社 サンマーク出版

<http://www.sunmark.co.jp/>